

2022年9月

正会員・賛助会員各位

会報誌 Nexus 特別号ご送付と周知のお願い

一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス  
事務局

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より日本在宅ケアアライアンス(JHHCA)の活動に関してのご理解とご賛同を賜り、誠にありがたく衷心より御礼申し上げます。

本日は会報誌 Nexus の特別号「在宅ケア・サミット 2022 開催」をお送りいたします。  
JHHCA としては、初めて実施した大きなイベントでした。

所期の目的は、令和 3 年度事業成果ご報告の場として企画したものでしたが、多職種連携を強く打ち出しているシンポジウムの成功など、素晴らしい成果を示すことができました。

また当日はご参加の正会員・賛助会員の皆様をご紹介する機会を持つことができました。坪根雅子理事の決意表明もとても心強いものでした。

ほんとうにありがとうございました。

改めて熱気と思いをとお読み取りいただければ、まことに嬉しくありがたく存じます。

会員の皆様へもどうかご周知いただきたく、お力添えのほど重ねてお願い申し上げます。

厳しい暑さと大雨など酷い天候だった夏も、ようやく終わりを告げかけておりますが、かえって疲れが出て秋バテ注意などともいわれます。

時節柄どうかくれぐれもご自愛のほどお願い申し上げます。

敬具



# 日本在宅ケア・サミット 2022 開催!!

日本在宅ケアアライアンス成果報告の集い

日本在宅ケア・サミット 2022  
いのち・暮らし・生きがいを支える  
—在宅ケアが人を育て、地域を創る—  
主催：日本在宅ケアアライアンス  
後援：厚生労働省 / 日本医師会 / 日本歯科医師会 / 日本薬剤師会  
日本看護協会 / 日本介護福祉士会 / 勇美記念財団

## 7.17 日本の在宅ケア・医療を推進する19団体が集結!



正会員全19団体が登壇。団体を代表して坪根雅子・日本介護支援  
専門員協会常任理事が今後の活動に向けた決意表明を行いました



東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホールを会場に、リアルとオンラインのハイブリッド形式で開催。会場には先着の30名、オンラインで500名強の方々に参加いただきました

日本在宅ケアアライアンスの法人化から1年。活動成果がまとまったことを機に、7月17日、「日本在宅ケア・サミット 2022」を開催しました。「いのち・暮らし・生きがいを支える」という理念に基づき、課題解決に向けて取り組んできた成果を報告するとともに、樋口恵子氏の特別講演、多職種によるシンポジウムなどを通じて、日本の在宅ケア・医療に携わるすべての方々に熱いエールを送るとともに、今後に向けた新たな提言を発信しました。

### 開会挨拶

(一社)日本在宅ケアアライアンス理事長 新田 國夫

日本在宅ケアアライアンスに参集する19団体は、まさに日本を代表する在宅ケア・医療関連職種の団体です。そうした皆様の成果により、充実した報告書をまとめることができ、また、本日のような機会を持つことができました。本サミットのテーマ、「いのち・暮らし・生き

がいを支える」は、日本在宅ケアアライアンスの理念です。この理念のもと、時間の許す限り、皆様といろいろなお話ができればと思います。樋口恵子さんによる特別講演はじめ、各種報告、シンポジウムなど多彩なプログラムを、どうぞ楽しみにご参加ください。

# 大会プログラム

[13:00 ~ 13:10]

開会挨拶  
祝 辞

[13:10 ~ 13:20]

JHHCA 構成団体紹介

[13:20 ~ 13:30]

JHHCA 紹介  
「組織化から法人化へ」  
(映像)

[13:30 ~ 13:40]

JHHCA  
令和3年度 事業報告

[13:40 ~ 14:30]

特別講演

[14:45 ~ 15:25]

令和3年度  
JHHCA 成果報告

[15:25 ~ 16:55]

シンポジウム

[16:55 ~ 17:00]

閉会に代えて



辻哲夫・JHHCA 特別顧問が本サミットを「大変中身が濃かった」と総括。「中でもJHHCAメンバーが在宅コロナ患者のための活動を主導したのは特筆すべきこと」と評価した。

さらに、在宅医療の歴史をすべて見てきた立場から、「在宅医療は慢性症状を持つ虚弱な人が幸せに暮らすために不可欠。体系づくりのためにも繰り返し多職種で議論を」と呼びかけました。



総合司会を務めた元NHKエグゼクティブディレクターの迫田朋子氏



祝辞を述べる伊原和人・厚生労働省保険局長。「救急やオンライン診療などの分野で、コロナ禍における新たな形の在宅ケア・医療の可能性が見えました。2040年に向けて、在宅ケア・医療が地域包括ケアの柱になるため、さらに推進して欲しい」とJHHCAに大きな期待を寄せました



賛助会員の皆様もリアルとリモートで参加されました



この日のために制作されたJHHCAの紹介動画をお披露目



JHHCA 発足の経緯と活動を紹介する新田理事長



令和3年度JHHCA事業報告を行う高橋在也・研究事業部長。勇美記念財団委託事業における「新型コロナウイルス感染症の自宅療養者に対する医療提供プロトコル」作成ははじめ、取り組んだ課題と成果を紹介

## 令和3年度 JHHCA 成果報告

### 在宅ケアを取り巻く4つの課題

コロナ対応、食支援、大都市圏での活動、医療的ケア児の支援 — 重要課題に果敢に挑む

「JHHCAではいろいろな分野の団体が協力し、多岐にわたる活動が on going で進められている。今日はその中から、現在のトピックスであり、大きな課題を含む4つのテーマについて報告をいただく」と飯島座長。

石垣泰則氏(日本在宅医療連合学会)は「新型コロナウイルス感染症における在宅ケアの役割」を、2020年4月の行動方針策定以降の具体的対応として報告。太田秀樹氏(全国在宅療養支援医協会)は「食支援」をテーマに、美味しく楽しく食べることが「生きがい」を支えることになると解説しました。平原優美氏(日本訪問看護財団)



令和3年度JHHCA成果報告で座長を務めた飯島勝矢・JHHCA 業務執行理事

は「大都市圏における在宅ケアサービスの課題と展望」として、都会の特徴やニーズを整理し発表。奈倉道明氏(埼玉医科大学総合医療センター)は「医療的ケア児に関する戦略」を、法律や教育環境なども含めて報告しました。

### 一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス

#### 正会員

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般社団法人 全国在宅療養支援医協会</li> <li>● 一般社団法人 全国在宅療養支援歯科診療所連絡会</li> <li>● 一般社団法人 全国訪問看護事業協会</li> <li>● 一般社団法人 全国薬剤師・在宅療養支援連絡会</li> <li>● 一般社団法人 日本介護支援専門員協会</li> <li>● 一般社団法人 日本ケアマネジメント学会</li> <li>● 一般社団法人 日本在宅医療連合学会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般社団法人 日本在宅栄養管理学会</li> <li>● 一般社団法人 日本在宅ケア学会</li> <li>● 一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会</li> <li>● 一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会</li> <li>● 一般社団法人 日本老年医学会</li> <li>● 公益社団法人 全国国民健康保険診療施設協議会</li> <li>● 公益社団法人 全日本病院協会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公益財団法人 日本訪問看護財団</li> <li>● 特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会</li> <li>● 特定非営利活動法人 日本ホスピス・在宅ケア研究会</li> <li>● 日本在宅ホスピス協会</li> <li>● NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク</li> </ul> |
|--|---|---|

(五十音順)

#### 賛助会員

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療法人 心の郷 穂波の郷 クリニック</li> <li>● 株式会社 大塚製薬工場</li> <li>● 東邦薬品株式会社</li> <li>● 株式会社 ニチイ学館</li> <li>● 一般財団法人 在宅ケアもの・こと・思い研究所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療法人 在宅サポート ながさきクリニック</li> <li>● 一般社団法人 全国介護事業者連盟</li> <li>● 公益社団法人 日本理学療法士協会</li> <li>● マルホ株式会社</li> <li>● アポットジャパン合同会社</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● Meiji Seika ファルマ株式会社</li> <li>● 一般社団法人 日本生活期リハビリテーション医学会</li> <li>● 一般社団法人 日本作業療法士協会</li> <li>● 株式会社 クリニコ</li> </ul> |
|--|--|---|

当法人の目的・趣旨にご賛同いただける団体等に賛助会員としてご協力・ご支援をお願いしております。

お問い合わせ・お申し込みは  
日本在宅ケアアライアンス事務局まで



## シンポジウム

# 生きがいを支える在宅ケア

～多職種で考える～

JHHCA に名を連ねる7団体の若手代表が、生きがい支えるうえでのそれぞれの職種の役割や連携方法などを議論。在宅ケアの無限の可能性を感じさせる時間となりました。



### 〈シンポジスト〉

看護師 藤野 泰平

(日本訪問看護財団)

歯科医師 萩谷 勲信

(全国在宅療養支援歯科診療所連絡会)

薬剤師 小林 輝信

(全国薬剤師・在宅療養支援連絡会)

管理栄養士 潮田 直子

(日本在宅栄養管理学会)

介護支援専門員 須田 和也

(日本介護支援専門員協会)

介護福祉士 石本 淳也

(日本介護福祉士会)

医療ソーシャルワーカー 大石 春美

(心の郷 穂波の郷クリニック)



## 2040年頃に在宅ケアの 主役になる若手が登壇

武田座長は冒頭で、「本日、19団体が集結したことで、多くの団体に支えられている、ともに在宅ケアに取り組んでいけるという強い連帯をあらためて感じています」と述べたうえで、「生きがいを支えること」を重視するJHHCAの立場を強調。壇上に上がった7団体の代表を、「2040年頃にケアの主役になるであろう若い年代の方々」と紹介し、それぞれに自己紹介、所属団体や専門性のアピール、エピソード紹介などを求めました。

その後、7名のプレゼンを受ける形で、在宅医の佐々木淳氏、草場鉄周氏が指定発言。一



座長を務めた  
武田俊彦・JHHCA 副理事長

人ひとりを多職種で支えることの大切さを、それぞれの表現で語りました。

ディスカッションでは、「多職種ネットワークの広がりを実感する」「1人の医師との出会いで自分は変わった」「訪問活動に取り組む専門職の存在をもっと知ってほしい」など、時間いっぱい思いを語った座長含め10名。最後は、シンポジストの1人である大石 MSW が作成した命輝く動画を鑑賞し、大きな感動と拍手の中でシンポジウムは終会しました。

## （ 指定発言 ）



医師  
佐々木 淳  
全国在宅療養支援医協会

医師は出しゃばり  
過ぎず、地域全体の  
チームでケア

最適なチームをつくることの重要性を再認識。「支える医療」とは、患者さんの望む生活を医師が管理しないこと、多職種を萎縮させないことかもしれない。



医師  
草場 鉄周  
日本プライマリ・ケア連合学会

生きがいは捉え方が  
重要。価値観含めた  
理解の共有を

「患者中心の医療の方法」という概念があり、患者さんの生きがいを1つのフレームワークで捉える。一定の概念を共通言語に議論を重ねていきましょう。



藤野

幸せになるための手段を、島、山含めて日本の隅々まで届けたい。「在宅でも大丈夫」ではなく「在宅が幸せ」と感じる人を増やしたい。

薬という「モノの視点」と患者全体を捉える「ヒトの視点」の2つを持つのが薬剤師の強み。衛生管理も担い、生活の質をアップ。



小林

地域の中で、顔だけでなく腕・足・心の見える関係づくり。エコマップを重視し、サービスを創出しながら一人ひとりを支援している。



須田

個人因子もすべて含めてその人を理解し、暮らしにくさ、生活しづらさを解消し、生きがいのある「自分らしい暮らし」の実現を目指す。



石本

## （ メッセージ ） それぞれの職種が 「生きがい」を支えるために

食べることを支えるのが歯科の役割。口腔管理の主体は歯科衛生士。在宅療養支援歯科診療所連絡会の横のつながりが連携の支えになっている。



萩谷



潮田

嗜好と能力に合わせて負担を軽減しながら食支援。「好きなものが食べられた」「思うように調理ができた」といった言葉と笑顔が原動力。

夢や希望の実現を目指すコミュニティ緩和ケアを展開。命を愛おしむ心が以て伝わり、喜怒哀楽を精一杯表現しながら今を生きる力が蘇える。



大石



## 日本で暮らす人の老いと死が スムーズに進む体制づくりを

長年にわたり「高齢社会をよくする女性の会」を率い、90歳の今も活発に活動する樋口恵子氏が一高齢者としての思いを語りました。



特別講演の座長を務めた蘆野吉和・JHHCA 業務執行理事

私は40年前、女性高齢者を置き去りにしないで一緒に進んでいましょう、という趣旨で「高齢社会をよくする女性の会」を組織しました。この会では新田理事長に度々講演いただき大変勉強になっています。この40年間に私は確実に老い、90歳になりました。大病を乗り越え、医療費に困ることもなく日本社会の制度や文化の恩恵を受けて、今を迎えています。

最近、声を大にして申し上げているのが「ファミレス社会」。レスはless、家族が少なくなっていく社会です。従来からある「家族の中で世代間が助け合う文化」が担い手がいなくなって、消滅に向かっていきます。高齢者を含む世帯のうち3世代家族は1割を切り、50歳時の非婚率は男性4割、女性3割。1人で生きようとする人が人間らしくあの世へ送り届けてもらえる、そういう状況をつくるのが我々市民の役割であり、そのリーダーである先生方のお役目です。地域で助け合う仕

組みが必要です。日本は、いずれどこの国にも訪れるであろうファミレス社会のモデルを示すことができる立場にいます。

私は今、自分の現状を「ヨタヘ口期」と呼んでいます。朝起きて空腹にならない。国民栄養調査で栄養失調ぶりが目立つのは85歳以上の女性、つまり私です。日本の女性は長寿ですが、健康寿命は相対的に男性の方が長い。理由の1つは、女性が貧乏という現実に行き着きます。女性を担税者として育ててこなかったため、日本の高齢女性の多くが“貧乏婆さんまっしぐら”に、おぼつかない足取りで歩んでいるのです。対策するなら今。中高年女性に働く場を与えてほしい。また、在宅ケアに関わる方々には、経済的な相談先まで紹介してくださるような専門職であってほしいと、心から願います。

自分の死に様によって家族に迷惑をかけたくはありません。どうか皆様、日本で暮らす人の老いと死が一貫してスムーズに人間らしく進むような体制づくりに、ご尽力いただきますよう。

## 日本在宅ケア・サミット 宣言文

日本在宅ケアアライアンスは、在宅ケアの質の向上とその普及促進等を目的とした、多職種からなる関係団体の連合体組織です。私たちの社会は長寿社会となり、少子化と高齢化の進行に伴う社会構造の急激な変化により、医療・介護・福祉に対する市民の期待とニーズが大きく変容し続けています。私たち、日本在宅ケアアライアンスは、この社会の変化に対応し、あるべき在宅ケアを追求し続けます。今回、第1回の日本在宅ケア・サミットを開催するにあたり、日本在宅ケアアライアンス会員の総意として、在宅ケアサービスの一層の充実を基盤とした地域共生社会を目指し、以下の宣言を行います。

わたしたちは

1. 質の高い在宅ケアサービスを通して市民からの期待に誠実に応えます。
2. 職能団体、学術団体、そして行政と協働し、全世代型地域包括ケアシステム構築に尽力します。
3. 市民とともに、いのち・暮らし・生きがいを守り、支え合う豊かな地域共生社会を目指します。

令和4年8月 一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス理事長 新田國夫

- ・一般社団法人 全国在宅療養支援医協会
- ・一般社団法人 全国在宅療養支援歯科診療所連絡会
- ・一般社団法人 全国訪問看護事業協会
- ・一般社団法人 全国薬剤師・在宅療養支援連絡会
- ・一般社団法人 日本介護支援専門員協会
- ・一般社団法人 日本ケアマネジメント学会
- ・一般社団法人 日本在宅医療連合学会

- ・一般社団法人 日本在宅栄養管理学会
- ・一般社団法人 日本在宅ケア学会
- ・一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会
- ・一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会
- ・一般社団法人 日本老年医学会
- ・公益社団法人 全国国民健康保険診療施設協議会
- ・公益社団法人 全日本病院協会

- ・公益財団法人 日本訪問看護財団
- ・特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会
- ・特定非営利活動法人 日本ホスピス・在宅ケア研究会
- ・日本在宅ホスピス協会
- ・NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク

(五十音順)

事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-5-1 全共連ビル 麹町館 506  
一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス事務局  
TEL.03-5213-4630 FAX.03-5213-4640 ✉ zaitaku@jhhca.com

HPにも情報を  
掲載しています



<https://www.jhhca.jp>